

電気、上下水道から 独立した自立型水洗トイレ

災害時のトイレ問題を解決

SDGsの実現に
貢献するトイレ

6 安全な水とトイレ
を世界中に



11 住み続けられる
まちづくりを



日本大学

工学部

土木工学科

教授

中野 和典



一日に飲む水の量は2L程度ですが、トイレで使用する水の量は約45Lです。断水時の水洗トイレ用水の確保がいかに難しいか、水量で明らかです。

非常時といえども、私たちの健全な生活に快適な水洗トイレは欠かせません。e6sが非常時のトイレ問題を解決します。



ポイント

- 水洗トイレで流した汚物を固形物と水に分けて処理
- 水は非生物学的な処理で再生して水洗用水として循環利用
- 水を循環させる最小限の動力だけで稼働
- 汲み取り式と比較して汚物量は10分の1以下に減容

こんなニーズに

- 災害時でも衛生的にトイレを使用したい
- 避難所、学校、駅等の公共施設やタワーマンションのトイレを持続可能にしたい
- 世界中の上下水道インフラ未整備の地域でも水洗トイレを提供したい

トイレ洗浄水再生装置e6s(エシックス)の開発 ～自立型トイレ（電気と上下水道から独立）の実装を目指して～

日本大学 工学部 土木工学科 教授 中野 和典

e6sのねらい

1. 家庭のトイレを持続可能にします

マンションなど災害に強い住居で生活する人も、水洗トイレが使えないと避難所生活をおくることになります。各家庭のトイレに**水再生装置e6s(エシックス)**を組み合わせることにより、断水時でも水洗トイレの使用が可能となり、大規模災害時の自宅避難が可能になります。

2. 非常時のトイレ問題を解決します

SDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」は、災害大国日本の大きな課題です。

水再生装置e6sを装備したコンテナを防災避難所、学校、駅などの公共施設やコンビニに設置することで、非常時には上下水道に依存しない自立型トイレとして稼働させます。

コンテナのモバイル性が無災害地域から被災地域への**水再生装置e6s**の移動を可能にし、地域間の互助による災害時支援に貢献します。

3. 世界のトイレ問題を解決します

世界の3人に1人にあたる23億人の人々がトイレのない生活をおくっています。

水再生装置e6sを実装することで、上下水道インフラが未整備である発展途上国でも水洗トイレが使えるようになり、SDGsの6番目の目標「安全な水とトイレを世界中に」の実現に貢献します。

e6sの概要

水再生装置e6sは、水洗トイレで流した汚物を固形分と水に分けて処理します。水は再生して水洗用水として循環利用します。非生物学的な処理で水を再生するため、微生物を維持するための曝気が不要であり、**水を循環させる最小限の動力(再生可能動力)だけで稼働**します。固液分離装置では固形分のみを分離して回収するため、汲み取り式と比較して**汚物量が10分の1以下に減容化**されます。

水再生装置e6sと組み合わせることで、あらゆる水洗トイレが電気や上下水道に依存しない**持続可能な水洗トイレ**に生まれ変わります。

右図:家庭の水洗トイレと組み合わせた**水再生装置e6s**



e6sの水再生能力

1071回(大便355回、小便716回)再生したトイレ洗浄水の外観で分かるように**1000回の再生後もトイレ使用者に違和感を与えない透明感の維持が可能**です。

水再生装置e6sのコンパクト化を進めており、最新機(250人用)のコンパクト化は、右の写真に示すレベルまで進んでいます。

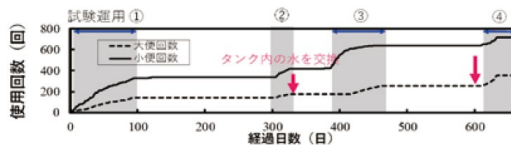
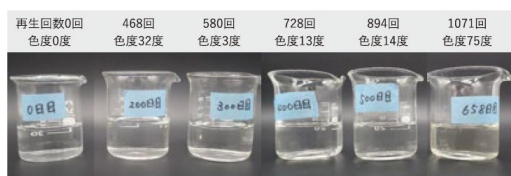


表:658日間に大便355回・小便716回(合計1071回)トイレを使用。



画像:1071回再生したトイレ洗浄水の外観の変化。



e6sの社会実装に向けて

水再生装置e6sを製造・販売する企業とともにビジネスモデルの確立に協力していただけるパートナーを探しています。コンタクトお待ちしております。